

レザークラフトを通じて“自分らしさ”をPR



重信 Ruiさん・幹広さん

大三島で捕獲・解体した猪の皮を東京の加工業者に送ると、なめして染色された革が戻ってきます。全9色の生地を組み合わせて、バック、財布、キーケースなどのオリジナル商品を作ります。時にはオーダーメイドで作成します。夫婦二人で意見を交わしながら、いくつもの工程を経て、時間と手間、想いを込めて丁寧に作ります。依頼者の方に満足していただくには、要望に的確に応えるだけでなく、一早く手元に届けられるよう仕事にメリハリをつけ、効率を上げるよう工夫しています。



【移住を考える人へ】

自分たちが、一移住者として成功すれば、移住者の方の数も幅も広がるのではと思います。頑張っています。今後も移住者の方との交流も続け、私たちの経験を他の移住者にも伝えていきたいと思っています。

【プロフィール】

東京都出身。サラリーマン時代に、香川県の「瀬戸内国際芸術祭」を訪問。瀬戸内海に浮かぶ島々の魅力に惹かれる。2013年3月から地域おこし協力隊として大三島に赴任したことをきっかけに定住。

【仕事内容】

『Jishac (ジシャク)』

“自分の尺度”で唯一無二の商品を作るという意。ハンドクラフトの革小物の製作と販売。

趣味を生かした仕事を“趣味の延長”ではなく“生業”にしながら、自分らしく働く姿を、間近で我が子に見せたいと思い、地方への移住を考えていました。「瀬戸内国際芸術祭」を訪れた際に、瀬戸内の島々に可能性を見出し、地域おこし協力隊の方と接するうちに、大三島なら自分たちの理想とする仕事の実現できると思い移住を決意しました。そして、ほかの移住者の人があまりしていない猪革の『レザークラフト作家』と『素材屋』を始めました。

「レザークラフト職人」といっても、始めは、島の人たちにはあまり馴染みがないため、地域の防災や奉仕活動、祭りなどに積極的に参加し、自分たちの仕事内容や移住した経緯、大三島に対する想いをオープンに語ることを心がけました。そのおかげで島の人たちとも早く打ち解けることができ、家族ぐるみで仲良くさせてもらっています。

オーダーしてくれた方が、私たちが作った商品に気に入って下さり、リピーターとなって、その使い心地や良さを人づてに広めていただいたおかげで、自分たちの想いが伝わっていくのが何より嬉しいです。

